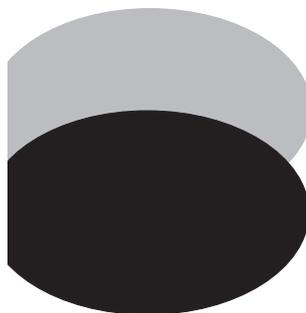


20091013

絵本学会 NEWS No.37

発行：絵本学会
発行日：2009年10月13日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒567-8578 茨木市宿久庄2丁目19-5
梅花女子大学児童文学科 香曾我部秀幸研究室内
E-mail:ehon-g@baika.ac.jp
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~ehon/index.html>



会長就任にあたって 中川素子
絵本学会第12回総会
〈画家＝聞き書〉のすずめ 上笙一郎
絵本研究会開催のお知らせ
『日本の絵本美術館』刊行にあたって 川西美沙
インフォメーション＝絵本関係展覧会・イベント
委員会から
事務局からのお知らせ

絵本学会

会長就任にあたって

中川 素子

私が絵本学会設立を提案し、太田大八さんや今井良朗さんや松本猛さんなどと設立準備委員会を立ち上げたのは、1996年のことである。13年前のことだ。私たちは、絵本学というものがある児童文学、保育学、表象学、デザイン論、美術史、心理学などさまざまな研究領域を含みうるものと考えていた。また会員についても、研究者、絵本作家、編集者、司書、読み聞かせや手作り絵本をなさっている方など多様になると予想していた。この学会には、その目的を研究組織としての意味と、みんなが集まるフォーラムの意味を最初から併せ持たせていたのである。

そんな在り方は、私にエリック・カールの『ごちゃまぜカメレオン』（クレヨン版一ほる出版、コラージュ版一偕成社）をイメージさせる。灰色の小さなカメレオンが、動物園の大きかったり色鮮やかだったりする動物に憧れるたびに、その特徴を得てしまう。フラミンゴのピンク色した長い脚、キツネの赤いしっぽ、鹿の茶色の角、キリンの長い首などである。いろいろな形と色でごちゃまぜになってしまうカメレオン。カメレオンは八エをつかまえるために元の姿に戻り、この絵本は本当の自分が一番よいのだよと語ってもいるが、ごちゃまぜ状態は何といっても子どもたちが一番面白がるどころであり、エネルギーに満ちている。

学会は研究組織でのみあるべきと考える研究者、描いた絵を重箱の隅をつつくように分析などしてほしくないとする絵本作家、子どもという枠をはずした絵本研究などとてもないとする方もおられることだろう。実は私自身もどんなに物語が面白くろうが、絵が貧しい絵本は表紙を開けるのもいやだった。しかし、多様な立場の発言とそのごちゃまぜ、つまり交流によって、絵本の世界が魅力を得てきたことを感じてもある。

学会としてではなくとも、会員の努力により絵本の世界が確実に深化し広がりをもちだしたのにお気づきの方も多いと思う。たとえば、板橋美術館や安曇野ちひろ美術館などの精力的な活動、

武蔵野美術大学、筑波大学、京都造形芸術大学など視覚的に絵本作りをすすめている大学、「絵本と教育(仮)」にとりかかっている文教大学、私を含め出版されたら絵本学の認知度を高めるに違いない『絵本事典』編集委員の方々、バリアフリー絵本に力を入れているIBBY、ロシア絵本を紹介し続けているカスチョール、手作り絵本の質を高めてきた東京展・絵本の部屋などである。他にもここには書ききれないほどの多くの活動がある。

会員たちの意志が周囲を動かし、またその成果が螺旋構造のように廻り高まりながら学会を勇気づけてくれるのは、うれしいことだ。フラミンゴの足も、キツネのしっぽも、鹿の角もその色と形が美しく特徴があればあるほど、ごちゃまぜの効果が増していく。

会員の皆さんには、自分なりの方法で絵本に対峙していただければと考える。私はレオ・レオニの『コーネリアス たってあるいたわにのほなし』（好学社）が大好きである。みんなが腹這っている時に、立って歩いたり逆立ちするなんて勇気がいる。でもコーネリアスが後ろを振り向いたら、馬鹿にしていた他のわにたちも、逆立ちの練習をしていたではないか。このコーネリアスのように勇気をもって、紀要論文の投稿や大会時の研究発表などを申し込んでいただければと思う。特に作品発表は、発表者がいつも同じなのが気になる。また共同研究助成金(3万円)の申し込み者数も少ないのが常だ。

学会役員は3年を1期とするが、役員交代の度に新しい性格が加えられ、豊かな学会になってきたように思う。さて、今度の理事会は何を加えることができるか。事務局や各委員会が早速動き出して、何とも頼もしい。既に高齢者の仲間入りした私は、逆立ちをみんなにまかせ、頭うちの会員数を増やし、学会案内を作るなど地道な仕事をしていこうと考えている。会員皆さんの力をお借りし、チャームで力強い絵本学会にしていければと思う。

絵本学会第12回総会

日時：2009年6月27日 午後5時～5時50分

会場：京都女子大学C 501教室

議長：生田美秋

書記：竹迫祐子

6月27日(土)午後5時より、73名の会員の参加、並びに、委任状126通をもって絵本学会第12回定期総会を開催。

●開会の辞

実行委員長が開会を宣し、最初に議長に生田美秋会員を、書記に竹迫祐子を選出、総会審議に入った。

●会長挨拶

佐々木宏子会長が開会の辞を述べた。

●役員の変替について

先の理事会選挙の結果を報告、選出理事の選任を満場一致で承認され、中川素子新会長より、各理事、監事の紹介がなされ、会長からの就任挨拶が行われた。

会長以下の新役員は次の通り。

会長・理事：中川素子

事務局長・理事：香曾我部秀幸

理事：石井光恵(紀要編集委員長)

理事：今井良朗(広報委員長)

理事：大橋真由美

理事：杉浦篤子(企画委員長)

理事：永田桂子(研究委員長)

理事：藤本朝巳(機関誌編集委員長)

理事：今田由香

理事：長野ヒデ子

監事：佐々木宏子

監事：竹迫祐子



●絵本学会2008年度活動報告

2008年度活動報告

2008年度決算・会計監査報告

三宅興子事務局長から、2008年度活動報告(案)、並びに、決算報告(案)がなされ、会計監査報告が千田篤および増成隆士両監事からの書面でなされたあと、同報告、決算が承認可決された。

◎第11回絵本学会大会の開催

2008年6月21日(土)、22日(日) 藤女子大学キャンパス(北海道札幌市)

テーマ：「絵本——“こころ”を伝える」

◎企画委員会の活動

絵本フォーラムの開催 11月22日(土) 日本児童教育専門学校

テーマ：「絵本はエンタテインメント!?——“楽しい絵本”について考える」

◎紀要編集委員会の活動

絵本学会研究紀要『絵本学』第11号の刊行

2008年度絵本参考文献目録(07年9月～08年8月)の作成

◎機関誌編集委員会

機関誌『絵本BOOK END 2008』(5号)の刊行

機関誌『絵本BOOK END 2009』(6号)の発行準備

◎研究委員会の活動

絵本研究講座の開催

・第2回研究講座 4月26日(土) 日本女子大学

テーマ：座談会 戦後の「保育絵本」を語る—『キンダーブック』を中心に—

・第3回研究講座 9月20日(土) 京都女子大学

テーマ：座談会 戦後の「保育絵本」を語る—『ひかりのくに』を中心に—

・絵本研究助成(2件、各3万円)

「絵本をとおしてジェンダーを考える」(中川素子氏、石井光恵氏、今田由香氏)

「戦後北海道版の絵本について—梁川剛一を中心に—」(代表：柴村紀代氏)

◎広報委員会の活動

『絵本学会NEWS』の発行33号(5月)、34号(9月)、35号(1月) HPの管理運営

◎他学会との連携

子どもの本 WAVE、JBBY、日本児童文学学会、日本イギリス児童文学学会、国際児童文学学会、日本マンガ学会他の学会等との連携推進

学会創設10周年事業の推進

絵本学会の記録のアーカイブ化を進め、ホームページに掲載を準備

◎絵本学会役員改選

会員による選挙を行い、新しい会長、事務局長、理事、監査を選出した。

◎入退会

新入会者33名 退会者28名(除籍者を含む)



●2009年度活動計画について

◎2009年度予算案について

つづいて、三宅事務局長から、2009年度活動計画(案)、並びに、予算(案)の提案がなされ、同計画、並びに、予算が承認可決された。

◎第12回絵本学会大会の開催

2009年6月27日(土)、28日(日) 京都女子大学キャンパス(京都市)

テーマ：「絵本と子育て支援」

◎企画委員会の活動

絵本フォーラムの開催

◎紀要編集委員会の活動

絵本学会研究紀要『絵本学』第12号の刊行

2009年度絵本参考文献目録(08年9月～09年8月)の作成

◎機関誌編集委員会

機関誌『絵本 BOOK END 2009』(6号)の刊行

機関誌『絵本 BOOK END 2010』(7号)の発行準備

◎研究委員会の活動

絵本研究講座の開催

絵本研究助成(2件、各3万円)

◎広報委員会の活動

『絵本学会 NEWS』の発行 9月、1月、4月

HPの管理運営

◎他学会との連携

子どもの本 WAVE、JBBY、日本児童文学学会、日本イギリス児童文学学会、国際児童文学学会、日本マンガ学会他の学会等との連携推進

●●

●絵本学会理事選出規則改定案について

絵本学会理事選出規則に関して、得票数が同数であった場合に対応する同規則改定案が提出され、承認可決された。

●理事選出規則の改定

第12回絵本学会総会での承認を経て、下記の通り理事と監事の選出規則が改定されましたのでお知らせいたします。(理事選出規則1. および監事選出規則1. の下線部を改訂)

・理事選出規則

1. 理事は10名のうち7名は正会員の中から正会員の選挙によって選出される。上位7番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から7番目までを当選とする。なお、7番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。

会長は理事会の推薦を得て、さらに3名の理事を任命することができる。

・監事選出規則

1. 監事は、正会員の中から正会員の選挙によって 2名が選出される。上位2番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から2番目までを当選とする。なお、2番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。

付則

本理事・監事選出規則は平成21年6月27日から施行される。

参考：現行理事選出規則

理事選出規則

1. 理事は、10名のうち7名は正会員の中から正会員の選挙によって選出される。会長は理事会の推薦を得て、さらに3名の理事を任命することができる。

2. 理事候補者は、選挙の1カ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行なう。

3. 理事候補者は70歳を越えない者とする。但し、会長によって任命される3名の理事は、その限りではない。

4. 理事の選挙は、7名を連記し郵送によって行う。

5. 選挙および会長任命によって選出された理事は、総会の承認を得て決定する。

監事選出規則

1. 監事は、正会員の中から正会員の選挙によって選出される。

2. 監事候補者は、選挙の1カ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行なう。

3. 監事の選挙は、2名を連記し郵送によって行う。

4. 選挙によって選出された監事は、総会の承認を得て決定する。

●●

最後に、新旧理事会からの緊急提案として、先ごろ決定された大阪国際児童文学館閉鎖決定に関して、絵本学会新旧会長名で橋下大阪府知事宛に抗議声明を公表することが提案され、内容は新旧会長に一任する形で、総会参加会員満場一致の承認がなされた。

●その他の質疑応答など

中川新会長、藤本理事より、以下の通り、次回絵本学会大会の予定が報告された。

日程 2010年5月3日(月)、4日(火)

会場 フェリス女学院大学(神奈川県横浜市)

●閉会の辞

第13回大会(2010年度)について

大会テーマ：「絵・ことば・音」

日程：2010年5月3日(月)、4日(火)

会場：フェリス女学院大学(神奈川県横浜市)

絵本学会 2008 年度収支 決算

2008 年 4 月 1 日～ 2009 年 3 月 31 日

科目	予算額	決算	増減 (予-決)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,140,000	3,590,000	-450,000	
賛助会員	300,000	260,000	40,000	20,000×13 口
正会員	2,800,000	3,310,000	-510,000	8,000×413 名 +6000 円
準会員	40,000	20,000	20,000	4,000×5 名
②事業収入	200,000	297,900	-97,900	
研究活動事業収入	50,000	60,000	-10,000	
フォーラム収入	50,000	60,000	-10,000	入場者収入
研究講座収入	0	0	0	
出版事業収入	150,000	237,900	-87,900	『絵本 BOOK END 2008』他
③雑収入	201,000	199,874	1,126	
受取利息収入	1000	1374	-374	
入会金収入	100,000	76,000	24,000	入会金 2000×38 名
雑収入	100,000	122,500	-22,500	出版物在庫販売など
事業活動収入合計	3,541,000	4,087,774	-546,774	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	1,880,000	1,444,572	435,428	
人件費支出	300,000	300,000	0	
事務局報酬支出	300,000	300,000	0	事務局賃金等
事業費支出	1,580,000	1,144,572	435,428	
消耗品費支出	30,000	7,081	22,919	事務消耗品費
印刷製本費支出	750,000	638,355	111,645	
絵本学会ニュース	250,000	187,572	62,428	33、34、35 号
研究紀要	450,000	422,383	27,617	『絵本学』10 号
会員名簿	0	0	0	
その他	50,000	28,400	21,600	封筒等
通信運搬費支出	350,000	232,026	117,974	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	350,000	203,390	146,610	理事旅費等
会議費支出	30,000	12,642	17,358	
広告費支出	50,000	30,000	20,000	
印刷物制作費支出	20,000	0	20,000	
HP 更新作業費支出	30,000	30,000	0	
支払寄付金支出	0	0	0	
雑支出	20,000	21,078	-1,078	振込手数料、会長印作製他
②活動費支出	910,000	687,186	222,814	
大会運営補助金支出	250,000	243,859	6,141	ポスター等制作費を含む
専門委員会活動費支出	300,000	250,507	49,493	
企画委員会	100,000	90,687	9,313	フォーラム等
紀要編集委員会	50,000	35,590	14,410	紀要編集等
機関誌編集委員会	50,000	47,850	2,150	『絵本 BOOK END』編集
研究委員会	50,000	55,000	-5,000	研究会主催
広報委員会	50,000	21,380	28,620	『絵本学会ニュース』編集
研究助成費支出	60,000	60,000	0	3 万円 ×2
10 周年事業支出	300,000	132,820	167,180	継続事業、本年度で完結 *
③出版事業支出	1,200,000	1,430,531	-230,531	『絵本 BOOK END 2008』
編集作業費支出	200,000	277,725	-77,725	
制作費支出	1,000,000	1,152,806	-152,806	
事業活動支出合計	3,990,000	3,562,289	427,711	
事業活動収支差額	-449,000	525,485	-974,485	

科目	予算額	決算	増減(予-決)	備考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
10周年事業資産金取崩収入	300,000	132,820	167,180	
投資活動収入計	300,000	132,820	167,180	
2. 投資活動支出				
10周年事業積立資産支出	0	0	0	
20周年事業積立資産支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	300,000	132,820	167,180	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動収入				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	200,000	0	200,000	
当期収支差額	-349,000	658,305	-1,007,305	
前期繰越収支差額	2,237,150	2,237,150	0	
次期繰越収支差額	1,888,150	2,895,455	-1,007,305	
* ホームページ代金110,000円未払いを含む				

絵本学会 2009 年度収支予算

2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日

科目	予算額	前年予算額	増減(予一決)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,360,000	3,140,000	220,000	
賛助会員	280,000	300,000	-20,000	20,000×14 口 (現在 14 団体)
正会員	3,040,000	2,800,000	240,000	8,000×380 名 (現在約 400 名)
準会員	40,000	40,000	0	4,000×10 名
②事業収入	200,000	200,000	0	
研究活動事業収入	50,000	50,000	0	
フォーラム収入	50,000	50,000	0	入場者収入
研究講座収入	0	0	0	
出版事業収入	150,000	150,000	0	『絵本 BOOK END 2009』
③雑収入	171,000	201,000	-30,000	
受取利息収入	1000	1000	0	
入会金収入	70,000	100,000	-30,000	入会金 2000×35 名
雑収入	100,000	100,000	0	出版物在庫販売など
事業活動収入合計	3,731,000	3,541,000	190,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	1,920,000	1,880,000	40,000	
人件費支出	300,000	300,000	0	
事務局報酬支出	300,000	300,000	0	事務局賃金等
事業費支出	1,620,000	1,580,000	40,000	
消耗品費支出	30,000	30,000	0	事務消耗品費
印刷製本費支出	790,000	750,000	40,000	
絵本学会ニュース	250,000	250,000	0	36、37、38 号
研究紀要	450,000	450,000	0	『絵本学』11 号
会員名簿	0	0	0	2010 年度発行予定
その他	90,000	50,000	40,000	封筒等
通信運搬費支出	350,000	350,000	0	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	350,000	350,000	0	理事旅費等
会議費支出	30,000	30,000	0	
広告費支出	50,000	50,000	0	
印刷物制作費支出	20,000	20,000	0	
HP 更新作業費支出	30,000	30,000	0	
雑支出	20,000	20,000	0	振込手数料等
②活動費支出	610,000	910,000	-300,000	
大会運営補助金支出	250,000	250,000	0	ポスター等制作費を含む
専門委員会活動費支出	300,000	300,000	0	
企画委員会	100,000	100,000	0	フォーラム等
紀要編集委員会	50,000	50,000	0	紀要編集等
機関誌編集委員会	50,000	50,000	0	『絵本 BOOK END』編集
研究委員会	50,000	50,000	0	研究会主催
広報委員会	50,000	50,000	0	『絵本学会ニュース』編集
研究助成費支出	60,000	60,000	0	3 万円×2
10 周年事業支出	0	300,000	-300,000	

科目	予算額	前年予算額	増減(予-決)	備考
③出版事業支出	1,200,000	1,200,000	0	『絵本 BOOK END 2009』
編集作業費支出	200,000	200,000	0	
制作費支出	1,000,000	1,000,000	0	
事業活動支出合計	3,730,000	3,990,000	-260,000	
事業活動収支差額	1,000	-449,000	450,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
10周年事業資産金取崩収入	0	300,000	-300,000	
投資活動収入計	0	300,000	-300,000	
2. 投資活動支出				
10周年事業積立資産支出	0	0	0	
20周年事業積立資産支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	300,000	-300,000	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	200,000	200,000	0	
当期収支差額	-199,000	-349,000	150,000	
前期繰越収支差額	2,895,455	2,237,150	658,305	
次期繰越収支差額	2,696,455	1,888,150	808,305	

<画家=聞き書>のすすめ

上 笙一郎

1

長年にわたり著書を上梓して来ていると、面白いことを自覚させられる。出版した自著のなかに、古書市場にしばしば現れるものと、全くと言ってよいほど出現しないものがあるという事実である。その後者にあたるもの、児童出版美術についての小著のうちでは、『聞き書=日本児童出版美術史』（1974年・太平出版社）と『児童出版美術の散歩道』（1980年・理論社）の二冊が正しくそれだ。

どうして古書店の棚に姿を見せないのかということ、その訳は、元もともとが飛ぶように売れる性質の書物ではなかったのに加えて、類書がなく、買い求めた人が手放さないからである。すいぶん前、東京と地方都市の古書店の販売目録に珍しく書名を見つけたけれど、東京では、著者のわたしが目を剥くほどの凄い高値が付いていた。

この二冊のうち、『聞き書=日本児童出版美術史』は、日本の子どものためのイラストレーションの歴史をつかむのに欠くことのない基本文献である。明治期より昭和戦前期までに仕事をした児童出版美術家、すなわちお伽絵・童画・抒情画・密描挿絵の描き家たち三十人近くに面接し、その経歴・画業・挿絵観などを聞いて記録したもの。小波・未明・広介・譲治などの童話作家は、文章表現を仕事とする人たちであり、頼まれて書いた随筆のなかにその生い立ちや児童文学観を洩らすことが出来たが、児童出版美術の画家にそのような機会は減多になかった。だから、わたしが、画家たちを歴訪して採った<聞き書>は、その画家たちのすべて世を去った今となっては<大いなる証言>であって、貴重この上ないということにならざるを得ないのである。

わたしの『聞き書=日本児童出版美術史』のカバーしたのは、戦前期登場の画家たちだけ。そして現在は、戦後期ももう半世紀をはるかに越えており、<戦後民主主義>時代の申し子であった岩崎ちひろさんや滝平二郎さん世代は亡くなり、1960年代の<児童文学革命期>にイラストレーターとして登場した瀬川康男さんや田島征三さんたちにしてからが、もはや老境に達している。戦後世代の児童出版美術家たち、戦前に比べれば随筆類の執筆を求められることが多くなり、その経歴・画業・挿絵観を綴る機会も増えたと言ってよいだろう。しかし、文筆をもって自身の生い立ちや挿絵観を綴ることの出来る画家はわずかではなくなり、したがって<聞き書>という手立ては、なお以て有効と言わなくてはならないのではあるまいか。

二次大戦ののち半世紀あまりの日本の児童出版美術史を過不足なく把握するには、画家たちよりの証言が必要だ。

みずから文筆を揮って書くことの得意でない画家たちのところへ赴き、その生い立ちから画歴・画観までを<聞き書>してくれる人の登場を願わないではいられない。そういう人が現れて、戦後半世紀あまりの歴史における主要な児童出版美術家の基本的データをキャッチしてくれたら、それは、児童文化研究史に残る大きな仕事となるのだけれども――

いま、むかしに比べると児童文化の研究者は増えてきたが、児童文学に集中しており、それも作家・作品論に偏っているようで、児童音楽・児童演劇・児童舞踊にリサーチする人はほとんどない。以前より多くなった児童出版美術の関係では、絵本の読み方・読み解き方ばかりがあふれており、確実な基礎に立った画家論・画風=流派論・歴史構築などは見ることが出来ない。こうした未開拓の領野の研究を推しすすめるには確実なデータが必要で、雑誌・文献・探索も不可欠だが、それと並んで、<画家の証言>も重要この上ないのである。

絵本学会は<学会>であり、児童出版美術的なく創り手>もいるかもしれないが、過半以上が<研究者>のはずだ。一篇の論文に長い月日を掛け骨身を削ることも大切だろうけれど、今や老境の児童出版美術家たちの証言取りにも乗り出してくれる人はいないのか。三、四十人の聞き書きを取れば、単行本出版はただちに成就し、それは研究業績にカウントされるが、それ以上に、その採録者の大きくて掛け替えのない研究業績になるのだが。

ここまで読んで来て、その仕事、わたしが引き受けますと決意された人があれば宜し。そうでなければ、このわたし、老いの身をいたわりつつも鞭打って、あの画家・彼の画家の許へ出かけ、旧著につづく『聞き書=現代日本児童出版美術史』を編んでまいりますぞ――

(児童文化研究者)



絵本研究会開催のお知らせ
テーマ: 絵本研究の方法

講師: 吉田新一

日時: 2009年 11月 7日(土)

会場: 日本女子大学

主催: 絵本学会研究委員会

絵本研究の方法について考えてみませんか

趣旨と内容: 絵本学会紀要「絵本学」も 12号を迎え、掲載論文(研究ノート等も含め)は 50篇を超えました。それぞれの研究方法は 10人 10色を呈し、個々には大変な努力が伺えます。そこで、絵本研究の途上にある人及びこれから志す人々が集まり、研究方法について意見交換をしてはどうかと企画しました。

初回として、絵本研究の第一人者・吉田新一先生に、研究作法等をお話しいただき、その後、各自のテーマに添ってどのような研究方法が可能かを話し合います。結論の出るような会ではありませんが、研究の精度を高める一助になればと考えます。

日時: 2009年 11月 7日(土) 13: 30~ 16: 45

場所: 日本女子大学・百年館 201号室

定員: 50名(申込み順)

参加費: 会員無料 非会員 500円

プログラム: A 講演 吉田新一 先生(絵本学会初代会長)

13: 30~ 15: 00

B グループワーク 15: 10~ 16: 45

申込み方法: 往復葉書に①~④の該当項目を書いて下記に送付。

氏名(会員または非会員を明記)

・連絡先

参加するプログラム(AまたはA+Bを明記)

A+B に参加の方のみ「研究テーマ」(予定でも可)

・送付先 〒 112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

日本女子大学 家政学部児童学科

今田 由香 宛

締め切り: 2009年 10月 27日(火) 必着

お問い合わせは、学会事務局 ehon-g@baika.ac.jp

研究委員: 永田桂子(委員長)・今田由香・大橋真由美

『日本の絵本美術館』刊行にあたって

川西美沙

絵本学会がシンポジウム「絵本と絵本美術館」を開催したのは、2003年 6月のことでした。今回の「日本の絵本美術館」のアンケートは、その折に絵本学会が行った、日本の絵本美術館へのアンケートを基にして行われたものです。先の絵本学会のシンポジウムでは、日本の絵本美術館の多様で広い展開を、世界に類を見ないものと位置づけ、その存在意義を確認するとともに、抱えている問題を討議し、同時に、今後の美術館活動への期待と展望が熱く語られました。

絵本の需要が、子どもだけでなく大人へも広がるにつれて、絵本と美術の関係にも、光が当てられるようになりましたが、絵本の絵が、美術として認められるようになってきたのは、まだついこの間のことです。絵本原画の価値と原画保存の重要性が認識され始めたのは、1970年代後半から 1980年代といわれています。絵本の原画展が催されるようになり、そして絵本美術館が次々と出来始めたのは 1990年代です。

それからおよそ 20年が経ち、今回のアンケート調査をみると、運営はなかなか厳しく、理想と現実の間で苦しむ多くの絵本美術館の実状が浮かび上がってきます。それらの美術館の中核となるべく国立の絵本美術館の設立に多くの期待が寄せられていることもわかります。今回の国際子ども図書館を考える全国連絡会のアンケートは、貴重な絵本の原画の散逸を防ぎ、保存するためには、国立の絵本美術館の存在が必要であるとの考えから、設立を願って、実施されました。その結果をまとめ、分析したこの「日本の絵本美術館」は、国立の絵本美術館の設立を願う人々の力となり、活動の大きな礎となってくれることと信じます。



絵本関係展覧会・イベント
Information

●世田谷文学館

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
03-5374-9111, 03-5374-9120 (Fax)

<http://www.setabun.or.jp/>

【常設展】文学に描かれた世田谷 100年の物語

【企画展】石井桃子展 (仮称)

10.2.6 (土) - 4.11 (日)

●絵本美術館&コテージ 森のおうち

〒399-8301 長野県安曇野市穂高有明2215-9
0263-83-5670, 0263-83-5885 (Fax)

<http://www.morinoouchi.com/index.html>

【企画展】宮沢賢治絵本原画展～「銀河鉄道を旅する」～

09.9.18 (金) - 11.17 (火)

【企画展】いせひでこ絵本原画展Ⅱ

09.11.20 (金) - 10.1.下旬

祈りの丘絵本美術館 (童話館グループ)

〒850-0391 長崎県長崎市南山手町2-10

095-828-0716

<http://www.douwakan.co.jp/museum>

【常設展】大道あやコレクション 生きとし生けるものへの賛歌

●安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原
0261-62-0772, 0261-62-0774 (Fax)

<http://www.chihiro.jp/azumino/>

【展示】ちひろの四季

09.7.10 (金) - 9.8 (火)

【展示】ちひろとちひろが愛した画家たち

09.9.11 (金) - 11.30 (月)

【企画展】日波国交樹立90周年記念 ポーランドの絵本原画展

09.9.11 (金) - 11.30 (月)

●ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2
03-3995-0612, 03-3995-0680 (Fax)

<http://www.chihiro.jp/tokyo/>

【展示】出版記念展 ちひろ いのちの画集

09.9.9 (水) - 11.15 (日)

【展示】ちひろ美術館コレクション展 ねこねこ大集合

09.9.9 (水) - 11.15 (日)

【展示】ちひろ・冬の詩 (うた)

09.11.18 (水) - 10.1.31 (日)

【企画展】武田美穂の絵本づくり

09.11.18 (水) - 10.1.31 (日)

●国立国会図書館 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

03-3827-2053 (代表), 03-3827-2069 (音声案内)

03-3827-2043 (Fax)

<http://www.kodomo.go.jp/index.jsp>

【企画展】出発進行!「のりもの」めめぐりへ

09.7.18(土)-10.2.7(日)

●軽井沢 絵本の森美術館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町風越公園182

0267-48-3340, 0267-48-2006 (Fax)

<http://www.museen.org/ehon/index2.html>

【企画展】中欧三国の絵本 ～チェコ・スロヴァキア・ポーランド

に見る絵本の諸相～

09.10.9 (金) - 10.1.11 (月)

●刈谷市美術館

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5

0566-23-1636, 0566-26-0511 (Fax)

<http://www.city.kariya.lg.jp/museum/index.html>

【常設展】Face 絵のなかの面々

09.10.31 (土) - 10.2.7 (日)

【常設展】拾いの美学 木村昭平展

10.2.13 (土) - 3.28 (日)

●木城えほんの郷

〒884-0104 宮崎県児湯郡木城町大字石河内475

0983-39-1141, 0983-39-1180 (Fax)

<http://service.kijo.jp/~ehon/>

【展示】秋野玄左衛門の世界展

09.9.12 (土) - 11.15 (日)

【展示】黒木郁朝の世界展

09.11.21 (土) - 12.25 (金)

【展示】星野道夫の世界展

10.1.3 (日) - 2.28 (日)

【展示】松岡達英の世界展

10.3.13 (土) - 4.11 (日)

●射水市大島絵本館

〒939-0283 富山県射水市鳥取50

0766-52-6780, 0766-52-6777 (Fax)

<http://www.ehonkan.or.jp/>

【展示】柿本幸造 絵本の世界展

09.10.1 (木) - 11.26 (木)

【展示】かがくいひろし 絵本原画展

09.11.28 (土) - 10.1.24 (日)

【展示】田中清代 絵本原画展

10.1.30 (土) - 3.30 (水)

●イルフ童画館

〒 394-0027 長野県岡谷市中央町 2-2-1
0266-24-3319, 0266-21-1620 (Fax)
<http://www.ilf.jp/>

【展示】 武井武雄の赤、青、黄色
09.9.11 (金) -11.24 (火)

【展示】 田島征三 絵本原画展
09.9.11 (金) -11.24 (火)

●飛騨絵本美術館 ポレポレハウス

〒 506-0205 岐阜県高山市清見町夏蔵 713-23
0577-67-3347 (Tel, Fax)
<http://www.porepore-house.com/>

【常設展】 田島征三 原画常設展示 さよならぼろ
09.10.1 (木) -12.25 (金)

【特別企画展】 JBBY「ハローディーエネミー展」〈平和に関する絵本展〉

09.10.17 (土) -11.30 (月)

【特別企画展】 飛騨絵本美術館所蔵「ポップアップ絵本展」
09.12.1 (火) -12.25 (金)

●小さな絵本美術館 岡谷本館

〒 394-0081 長野県岡谷市長地権現 4-6-13
0266-28-9877, 0266-28-9866 (Fax)
<http://www.ba-ba.net/>

【企画展】 瀬川康男 絵本原画展
09.9.19 (土) -11.8 (日)

【企画展】 クリスマス展
09.11.14 (土) -12.21 (月)

●小さな絵本美術館 ハヶ岳館

〒 391-0081 長野県諏訪郡原村原山
0266-75-3450, 0266-75-3460 (Fax)

【企画展】 北田卓史 絵本原画展
09.9.19 (日) -11.30 (月)

いわむらかずお絵本の丘美術館

〒 324 - 0611 栃木県那須郡那珂川町小砂 3097
0287-92-5514, 0287-92-1818 (Fax)
<http://ehonooka.com/>

【企画展】 いわむらかずおの絵本づくり『トガリ山のぼうけん』
前期: 09.9.17 (木) -11.29 (日) 後期: 09.12.3 (木) -10.2.28 (日)

●安曇野絵本館

〒 399-8301 長野県安曇野市穂高有明 2186-117
0263-83-6173 (Tel, Fax)
<http://www.ehonkan.net/>

【企画展】 酒井駒子 絵本 原画展
09.10.1 (木) -10.2.28 (日)

●板橋区立美術館

〒 175-0092 東京都板橋区赤塚 5-34-27
03-3979-3251, 03-3979-3252 (Fax)
<http://www.itabashiartmuseum.jp/art/index.html>

【企画展】 開館 30 周年記念 ドゥシャン・カーライとブラティスラヴァの作家たち
09.11.21 (土) -10.1.11 (月)

●安野光雅美術館

〒 699-5605 津和野町後田イ 60-1
0856-72-4155, 0856-72-4157 (Fax)
<http://www.town.tsuwano.lg.jp/anbi/anbi.html>

【企画展】 安野光雅・旅の絵本シリーズ第 7 弾 ～新作 旅の絵本 VII (中国編) ～
09.9.11 (金) -10.3.10 (水)

【企画展】 澤地久枝さんの安野光雅コレクション
09.9.11 (金) -10.3.10 (水)

【企画展】 もりのえほん
09.9.11 (金) -10.3.10 (水)

●数内正幸美術館

〒 408-0316 山梨県北杜市白州町鳥原 2913-71
0551-35-0088, 0551-35-0089 (Fax)
<http://yabuuchi-art.main.jp/>

【企画展】 開館 5 周年記念企画「数内正幸の世界 II」展
09.7.31 (金) -11.30 (月)

●とちぎ蔵の街美術館

〒 328-0015 栃木県栃木市万町 3-23
0282-20-8228, 0282-20-8227 (Fax)
<http://www.city.tochigi.tochigi.jp/hp/menu000001000/hpg000000762.htm>

【企画展】 チェコの絵本と原画展 - チャペック、トゥルンカから 21 世紀の作家まで -
09.9.8 (火) -11.8 (日)

研究委員会からのお知らせ

本年度の絵本研究に対する研究助成(3万円)の募集に、下記の応募があり、助成を決定いたしましたのでお知らせします。

1. 研究テーマ 戦後絵本史における「こぐま社」絵本研究
2. 研究の概要

戦後のこどもの本の出版史におけるこぐま社の出版について、その出版方針、出版物の変遷、内容などの研究をめざす。今年度の絵本学会大会において西巻茅子の絵本についての研究発表を行ったが、引き続き作品研究を続行する。

3. 研究代表者および構成員

「こぐま社の絵本」研究会 代表者 廣田真智子

中川亜沙美、西脇由利子、丸尾美保、万本光恵、渡邊万由美、三宅興子

4. 発表の形態 絵本学会での発表を計画している。

広報委員会からのお知らせ

広報委員会では、会員の所属するさまざまな現場からの活動レポートを募集し、『絵本学会 NEWS』や絵本学会のウェブ・サイトに随時掲載していく予定です。

『絵本学会 NEWS』は、年3回の発行になりますので、すべてのご要望に応えることはできませんが、ウェブ・サイトに掲載するなど、会員情報の充実を計っていかうと考えています。

条件、投稿方法など：

・絵本に関連する活動を行っている組織、団体などで、そこに参加している会員がレポートすることが前提です。

・活動内容など概要を添えて申し込んでいただいた後、広報委員会より原稿量、締め切り日などを決めて、あらためて依頼いたします。なお、申し込みが多い場合は、分野が偏らないよう考慮いたします。

・申込先：絵本学会広報委員会 今井まで、下記メールアドレスにお申し込みください。

E-mail: imai@musabi.ac.jp

事務局からのお知らせ

●専門委員会規程改訂のお知らせ

絵本学会の全専門委員会規程第3条(組織)2.委員の項目が、6月27日の理事会にて下記の通りに改訂されました。

「委員 3名以内」は「委員 若干名」とする。

●事務局移転のお知らせ

役員が改選されたことに伴い、学会事務局も交替しました。

新事務局の連絡先は次の通りです。

〒567-8578 茨木市宿久庄2丁目19-5

梅花女子大学児童文学科 香曾我部秀幸研究室内

E-mail:ehon-g@baika.ac.jp

尚、電話及びファックスは利用できません。メールまたは手紙にて連絡いただきますよう、どうぞよろしく申し上げます。

●2008年度第2回絵本学会旧理事会記録

日時：2009年6月27日(土) 10:30～12:00

会場：京都女子大学E棟204号室

出席者：佐々木宏子(会長)、三宅興子(事務局長)、生田美秋、笹本純、竹迫祐子、棚橋美代子、永田桂子、正木賢一

議長：三宅事務局長

報告事項

1. 前回議事録の確認

2009年4月18日に開催した理事会議事録を確認。

2. 第12回絵本学会大会について

棚橋美代子大会実行委員長から、大会に会員の参加申込者が115名、委任状が126名であること、一般の参加者は約300名を見込んでいることなどの報告があり、会場棟が土曜日は3校時まで授業に使用されていることへの了解が求められた。

3. 各委員会報告

1)企画委員会(灰島委員長に代わって三宅事務局長が報告)

昨年11月に委員の広松さんと神谷さんとともに絵本フォーラムを行い、盛会であった。

2)紀要編集委員会(永田委員長)

『絵本学』11号が発行され、5月に会員に送付された。前回理事会で承認された紀要の抜刷を有料とする件は、配付資料の通り、執筆要領の「進呈」の項から「抜刷」を独立させて改訂することとした。本年度の投稿締め切りは、例年通り9月30日(水)とする。また、紀要にカラーページを用いる問題に関しては、費用の見積もりを平安書院からとっており、次期理事会に引き継ぐこととする。(新理事会出席のため退席)

3)機関誌編集委員会(生田委員長)

『絵本ブックエンド2009』を発行し、6月に会員に送付した。発行部数は2000冊で、絵本学会には600冊が上納され、会員や執筆者等に配布した残りは119冊であった。経費は、制作費938,700円、編集費269,325円、発送費55,230円であった。

4)研究委員会(棚橋委員長)

2008年度3月末に、研究会の活動を報告する冊子『戦後の保育絵本を語る—「キンダーブック」『ひかりのくに』を中心に—』を作成した。9月の「絵本学会 NEWS」送付時に会員に配布する予定である。

5)広報委員会(笹本委員長)

「絵本学会 NEWS」36号を5月に発行した。また、正木理事より、10周年記念事業として過去の「絵本学会 NEWS」、10周年記念冊子をホームページに掲載したこと、過去の写真は、サーバーに保存しているため理事は閲覧可能であることが報告された。写真の今後の活用については、次期理事会に一任することとする。

4. 10周年記念事業について(10周年事業担当竹迫理事)

10周年記念事業は2008年度で終了したが、データの保管と継続は、引き続き行って欲しい。事務局から預かっている現物データは、返却して完了としたい。

5. その他

特になし。

審議事項

1. 役員選出規則改定の件

得票が同数となったために選挙によって新役員を自動的に決定できない場合に関する規定に関して、事務局作成案を審議し、総会にかけることとなった。

2. 第12回研究大会総会議案について

事務局長より、総会議案に沿って、08年度活動報告、08年度決算、09年度活動計画、09年度予算について説明があり、審議がなされた。09年度の予算案は、実態に基づくことを原則として作成されたものであるが、会費収入の見積もりについての数字の建て方は、来年度再検討することを次期理事会に引き継ぐこととする。また、08年度決算案は、千田篤、増成隆士の両監査委員から、適正であったことを認める書類が事務局に届いていることが報告された。

3. 会員の入退会（2009年4月～6月）

入会者：浅野法子、大櫃麻衣、梶浦恭子、加藤道子、川北典子、キム・ファン、斉藤好和、想厨子伸子、立花雅子、寺田和子、橋村晴美、福井一尊、古川伸子、丸田まゆみ、矢野真、和田直人

退会者：篠宮裕子、鳥越信、中川達夫、中嶋優子、古相正美、松岡寿子、田村剛章（逝去）、飯野順子（逝去）

除籍者（3年間会費未納による）：相沢直、飯村隆、今井香織、今川朗子、榎本一生、大西由佳、奥真智子、金澤信、高田夏子、高橋美保子、瀧川光治、竹林美佳、中村麻紀、柳田晶子、山田文恵、吉田奈央、米山優子

4. その他

大阪府立国際児童文学館の存続に関して、大阪府議会に絵本学会として請願を行い、各会派に受理されたにもかかわらず、3月の大阪府議会で廃止および大阪府立中央図書館へ資料の移転が決定したことに関して、絵本学会としての新旧会長の連名で遺憾の意を表明することを総会にかけることとする。

長年にわたり会計監査および会計の法人化様式へのご助言を頂いた千田篤監査委員に、何らかの形で謝意を表すことが決まり、新会長へ現会長からその旨伝えることが了承された。

以上

● 2009年度第1回理事会記録

日時：2009年6月27日（土）10：30-12：00 ※

会場：京都女子大学 E 204 教室

出席者：中川素子、香曾我部秀幸、石井光恵、今井良朗、今田由香、大橋真由美、杉浦篤子、永田桂子、長野ヒデ子、藤本朝巳

議長：中川素子

○報告事項

1. 指名新理事の紹介（中川会長）

指名新理事の紹介：長野ヒデ子（絵本作家）、今田由香（日本女子大学）

2. 各委員会報告 委員の選任報告

1) 企画委員会（杉浦委員長）

和田直人（山形大学）、加賀美裕子（「絵本の部屋」主宰）、梶浦真由美（元札幌文教短大准教授）

2) 紀要委員会（石井委員長）

中川素子、笹本純（筑波大学）、永田桂子（前委員長、1年のみ兼任）、村中李衣（梅光学院大学、永田委員の後任として2010年度より就任予定）

3) 機関誌編集委員会（藤本委員長）

生田美秋（前委員長、1年のみ）、永井雅子（横浜市戸塚区幼稚園英語講師）、

竹内美紀（フェリス女学院大学人文科学研究科英文学専攻博士後期課程）

4) 研究委員会（永田委員長）

今田由香、大橋真由美

5) 広報委員会（今井委員長・NEWS担当）

正木賢一（東京学芸大学・HP担当）、本庄美千代（武蔵野美術大学美術資料図書館）

3. その他

・絵本フォーラムの開催会場について（杉浦企画委員長）

これまでフォーラム開催会場として、故・岩崎真理子氏が所属されていた日本児童教育専門学校（同校は賛助会員）を無料で使用していたが、今後も使用して良い旨、同校よりお申し出があった。

今後、同校を会場に使用させていただくとともに、（関東地域以外も含め）別の色々な場所で開催することも検討中であることを報告。

同校へ向けて新たな個人会員の入会をお誘いすると同時に、これまでのお礼として会長名で礼状を出すことを承認。

・事務局引き継ぎについて（香曾我部事務局長）

7月中に事務局の引継ぎを完了する予定。それに伴い、新理事会のメーリングリストの利用が可能となる。事務局のメールアドレスは変更なし。

○審議事項

1. 今後の理事会について

・理事会開催回数

理事会と各専門委員会をより緊密に連動させるため、理事会開催を年4回にすることが審議され、決定された。開催回数の増加に伴い、

交通費予算増を計上する必要があるため、次回理事会までに事務局が交通費を概算し、報告する。

・会議費関連

大会時に開催される理事会では、昼食時まで会議が続くことがあるため、従来は弁当代を会議費から支出していたが、これを改め個人負担とすることが決定された。

・理事会日程

日程は土曜日、午後14時からで調整。会場は日本女子大学石井理事の研究室あるいは児童学科会議室。次回日程は、各理事の出席可能日を勘案し、事務局にて決定する。

2. 第13回大会について（藤本理事）

次回（第13回）大会について、藤本理事より開催場所、日程等の提案があり、承認・決定された。

・日程は、2010年5月3日（月）、4日（火）。開催場所はフェリス女学院大学。

所在地である神奈川県が子育て支援に力を入れており、現在大学側から県へ助成金を申請中で、助成が決定すれば、期間は2年間、助成項目に絵本学会大会を加えることも可能。資金に余裕が生まれれば、国外の絵本作家を招聘できる。

・連休中なので、こども連れの人も参加できるよう、こども向けのワークショップの開催や一時託児の設置等も検討する。

・ここ数年、大会開催校がすべてを負うことになっていたが、テーマの決定等について、理事会と連動すべきではないかという意見あり、次回理事会までに問題点を挙げ、検討することになった。

・次回大会の講演を谷川俊太郎氏に依頼、藤本理事より交渉する。

3. 作品発表について

・作品発表は、ラウンドテーブル等他のプログラムと重ならないほうが良い。

・作品発表の形式、展示方法についても見直すべき。

とくに口頭発表が課せられているため、発表をためらっている者もいると思われる。

等の意見が出され、今後検討の課題とする。

4. 規約変更について

・専門委員会の定員数の変更（事務局提案）

それぞれの委員会の独自性によって必要な委員の人数が異なることを考慮し、会則第9条（専門委員会）1の細則、「絵本学会専門委員会規程」にある全ての委員の定員を「3名以内」から「若干名」と変更する。

・機関誌編集委員会（藤本理事）

機関誌編集委員を1名増員し、本の体裁やレイアウト等に詳しい久保村里生氏（文教大学准教授）に委嘱する。

以上、承認・決定された。

5. その他

・会員数について

会員数の増減について大きな変動はないが、学会発足時に会員であった絵本作家の大半が退会されていることは留意すべき。今後あらたに絵本作家の入会を促す方向を探ることとする。

賛助会員の増加についても、大きな課題であること。

以上、同意を得た。

以上

※ 総会において新理事承認の後、議事内容を確認し、第1回理事会として議事を承認した。

●第2回 新理事会 記録

日時：2009年9月19日（土）14:00-16:30

会場：日本女子大学 新泉館4階 児童学科会議室

出席者：中川素子（会長）、香曾我部秀幸（事務局長）、石井光恵、今井良朗、今田由香、大橋真由美、杉浦篤子、永田桂子、長野ヒデ子、藤本朝巳

議長：中川会長

○報告事項

1. 中川会長より、これまでフォーラム開催会場として無料で使用させていただいた日本児童教育専門学校へ礼状を送りし、同校より今後も会場として使用して良い旨が記されたお返事を拝受したことが報告された。

2. 前回議事録の確認

2009年6月27日に開催した理事会議事録を確認。

3. 事務局報告（香曾我部事務局長）

・役員選出規則改定の確認（総会にて承認済み）

2009年度予算書、主に各委員活動費支出を確認。専門委員会の活動費は各委員会が立て替えておいて、後日事務局に請求することと同意。

杉浦企画委員長よりフォーラム収入枠に関する質問があり、今後会場が東京でない場合に費用がかかることが想定されると意見が出された。予算にはフォーラム収入欄が記されているが、決算の際には新たにフォーラム支出という項目を設け、表記することで承認された。

・大阪府立国際児童文学館の存続に関して、絵本学会として前・現会長の連名で大阪府橋下知事へ遺憾表明書を提出したことを報告。

○各専門委員会報告

①企画委員会（杉浦委員長）

次回絵本フォーラムを2010年1月31日（日）に藤女子大学で開催する。テーマは「絵本一作ることから考える」で、講師は松岡和義さん（元名寄市立短大学長 大空町女満別図書館館長）、和田直人さん（山形大学地域教育文化学部文化創造学科）、山田白百合さん（札幌絵本研究會・手作り絵本講師）。会員のほか、幼稚園、保育園関係者や絵本研究に関わる人を対象に参加者50名を見込んでいる。絵本製作の費用を検討後、高額にならないよう参加費を決める。「絵本学会NEWS」に詳細を報告する。

2010年度は東京、2011年度は北海道剣淵町の絵本の館での開催を検討中。

②紀要委員会（石井委員長）

紀要抜き刷りの有料化を検討。部数によって費用が異なるかどうか、価格を調査する。

（ただし理事会終了後、紀要の抜刷の有料化は旧理事会（6/27）

で承認され、執筆要領の「進呈」の項から「抜刷」を独立させて改訂することとなった旨、永田委員より報告あり。次回に再確認する。）紀要にカラーページが欲しいと会員からの意見があり、絵本学会の紀要として研究対象が絵本であることを考慮しても、図版のカラー化を検討する必要がある。カラーページの印刷代は執筆者負担にならざるを得ないが、コストが非常にかかるため、今後の検討課題とする。

・紀要の執筆者校正には本文だけでなく、目次の校正も含める。

③機関誌編集委員会（藤本委員長）

『絵本ブックエンド』の刊行計画について、毎号で特集を組むこと等を検討している旨報告があり、予算内に収めることが確認された。ただし、2006年度（2007年発行分）より、同誌が、前年度の情報をできるだけ盛り込んだ「アニュアルレポート」としての性格が明確化されていることが、他理事より発言があり、その旨確認され、計画を再度練り直すこととなった。

④研究委員会（永田委員長）

第1回目の研究会を11月7日（土）に日本女子大学で開催する。テーマは「絵本研究の方法」、講師は吉田新一さん（絵本学会初代会長）。資料代として参加費（会員は無料、非会員は500円）を設定。チラシを作成して各大学に配布する。申込期限が間に合えば、次号「絵本学会NEWS」発行の際に同封する。「絵本学会NEWS」とホームページに詳細を報告する。

研究助成について、再募集したものの、今年度は「こぐま社研究会」1件のみの応募であり、審査の結果、承認された。

⑤広報委員会（今井委員長）

次号「絵本学会NEWS」は近日中に入稿、10月20日前後発行予定。内容は、会則及び細則の変更、イベント報告、理事会報告等。今後は報告事項だけでなく、絵本の「表現」に関する要素を取り入れる試みとして、絵本作家などによるリレーエッセイを掲載する。第1回目は長野理事が担当予定。

絵本関係展覧会イベントに関して、「絵本学会NEWS」とホームページで会員に情報提供する。

京都女子大学からの本年度大会の報告が、9月19日現在未着のため、大会報告は次々号（38号）に掲載する。

○審議事項

1. 会員の入退会の承認（2009.7～2009.8）

・入会者：吉田久実、久保村里正、津田紀子、糸井江美、住谷朋人以上5名。

○第13回大会（2010年度）について

次年度大会校の藤本大会実行委員長より次回大会の提案があり、2010年5月3日（月）、4日（火）にフェリス学院大学で行うことが承認された。大会テーマは「絵・ことば・音」に決定。神奈川県助成金が得られなかったため、予算内での実施を検討する。

第1日目の講演：講師に谷川俊太郎さんが決定、他に乾千恵氏等が候補に挙がり、藤本委員長、長野理事を通じて交渉に当たる旨、承認された。

第2日目のシンポジウム（または座談会）：長野ヒデ子、近藤等則、智内兄助3氏に内定。

ラウンドテーブル：①「絵本におけることば」、②「子育て支援」、③「オノマトペ」をテーマに企画する。

大会テーマの「絵・ことば・音」に関する絵本を網羅する絵本展を同時開催する。

赤羽末吉生誕100年を記念して赤羽末吉の原画展を開催することも検討する。

作品発表の時間帯を調整し、他の分科会等と重ならないようにする。その場で討論ができるような発表形態を模索する。

大会期間中の保育を「子どもの遊びコーナー」として実施する。大会の詳細は次号「絵本学会NEWS」に掲載。研究発表と作品発表の申し込み締め切りは、例年より1カ月早めて2010年2月末日とする。

3. 千田前監事（会計監査担当）への謝意表明について

・10年間会計監査を無償で引き受けてくださった千田前監事へ、会長名を記した感謝状と長野ヒデ子理事より自作絵本、および武蔵野美術大学より長谷川集平のサイン入り絵本展カタログ等を贈呈する。

○学会財産の処置について

紀要「絵本学」と「ブックエンド」のバックナンバー在庫数を確認。紀要とブックエンドに関しては近年の三年間に刊行されたものは1冊1,000円で、それ以外は300円で販売することが承認された。

『絵本ブックエンド』4号は残部数が少ない（9冊）ため販売は打ち切り、それ以外は20冊ずつ保存することを決定した。

次回理事会は、2009年12月13日（日）14:00から、日本女子大学児童学科会議室で開催する。

以上

〈編集後記〉

絵本学会第12回大会からすでに4ヶ月ほどが経ち、『絵本学会NEWS』が届かないことにいらいらされた方も多いと思います。本来9月の発行の予定が、大幅に遅れましたことをおわびいたします。今号は、第12回大会の報告記事の予定でしたが、まだ報告記事が届いておりませんので、次号に掲載いたします。大会に関わる方々は、準備から報告まで、忙しい日々のあい間でさまざまな雑務をこなさなければならず、どうか報告を次号の楽しみとしてとっておいていただければと思います。

今号では、あわただしい日程の中で、上笙一郎さんがエッセイをお引き受けくださいました。心から感謝しております。今後は、リレー・エッセイとして絵本に関わるさまざまな方のエッセイを掲載していく予定です。次は長野ヒデ子さんが書かれます。

なお、次号『絵本学会NEWS』は、1月の発行を予定しております。

（今井）